

短編小説で読解力をつけよう

松浦 篤博

1 はじめに

生徒の創造力を伸ばすことが英語力向上の鍵であると思っている。おもしろい教材で生徒の興味関心を引き付けることができれば、学習意欲の向上につながり、英語嫌いをなくすことも少しは解消できるのではないかと考えた。

今回はモームの『蟻ときりぎりす』を教材にし、2人の兄弟の生き方を考えてもらった。

あらすじ

蟻は冬に備えて夏の間せつせと食物を集めて蓄えることに精を出す。一方きりぎりすはその間草の上に寝ころび太陽に向かって歌を歌って過ごす。

やがて冬が来たとき、きりぎりすは蟻の所に食物をもらいに行く。勤勉は報われるが浮ついた調子では罰せられるという教訓である。

モームは分別と常識を承認しない形でこの教訓を兄ジョージ(47歳)と弟トム(46歳)の生き方の中で活用している。

ジョージは25年間、年に2週間以上の休暇を取ったことがなく、9時に出勤し6時まで働く実直な人である。妻に対しても忠実であり、4人の娘たちに対しても信頼される父親である。給料の3分の1は貯金し、老後は田舎で菜園を耕し、ゴルフをすることを楽しみにしている。

トムは結婚し子供も2人いたが、ある日突然仕事を放棄し、結婚生活も気に入らず家を飛び出してしまう。お金がある間はヨーロッパのあちこちで2年ほど過ごした。しかしお金がなくなれば人から借りた。彼は交際範囲が広く友だちもできやすい性格であった。

ジョージは弟が改心し、着実な人生を歩いてくれることを願い、1、2度は援助してやる。しかしトムは相変わらず危ない橋を渡る生き方をする。あると

きトムは友人と計画を立てジョージから500ポンドのお金を引き出すと2人で豪遊する。それでもジョージは自分の晩年の生活を確信し弟は貧しい生活を送るだろうと思っている。

ところがトムは母親ほどの年上の女性と婚約するが、まもなくその女性が死ぬと彼女の莫大な遺産がトムに転がり込んで来る。結果的にトムは派手な生活を送る。これを聞いたジョージは「不公平だ」と叫ぶ。

2 指導目標

- (1) 原書に触れることにより意欲を引き起こす。
- (2) 内容を深く考える習慣を身に付けさせる。
- (3) 授業との結び付きを大切にさせる。

3 指導過程

- (1) 1週間前に教材(原文 注付き)を配付し自学させる。この時質問プリントも同時に配付する。
- (2) 1時間生徒からの質問を受ける時間を設ける。
- (3) 2時間かけて講読し、理解を深める。
- (4) 2日後に質問プリントを回収する。

4 生徒のつまずきはどこにあるか

最初から予想されたことは単語力の不足であり、可能な限り注釈をつけたが、高校2年の生徒には相当難解であったようだ。日頃使用している教科書の内容よりかなり深く、ストーリーの展開を追っていくのに慣れていないことが理解を困難にしていると思われる。移り変わる場面設定をまちがえるために特に人称代名詞の確定に苦勞するようだ。蟻ときりぎりすの話が次に出てくる2人の兄弟の話とうまく結び付けられない生徒もいた。

しかし、「物語に直接触れることができるのでこのような経験はよいと思います。物語のほうが自分なりの解釈ができるし、単語や文法も覚えやすいので

勉強になります。時間があるときにもっと簡単な文章を読みたい」という生徒の感想もあった。

5 日本語訳で確認したかった3か所

(1) When I was a very small boy I was made to learn by heart certain of the fables of La Fontaine, and the moral of each was carefully explained to me.

この英文で使役動詞 make の受け身形を忘れた生徒もいたが、大多数はよくできた。

(2) I do not ascribe it to perversity on my part, but rather to the inconsequence of childhood, which is deficient in moral sense, that I could never quite reconcile myself to the lesson.

この文の質問が最も多かった。指導した項目を列挙すると次のようになる。

- ・ not... but の構文を見落とした生徒が多かった。
- ・ it の内容が次に出てくる that 以下のことだと気づかなかった。
- ・ which の先行詞は childhood であると読めなかった。

しかしなかには次の例にあるように構文力がある生徒もいた。

〈生徒の訳例〉

私とその教訓に全く満足できなかったのは私のつむじ曲がりのせいではなく、むしろ子供時代の見当違いのせいだ。なぜなら、子供時代は道徳的な良識に欠けているからだ。

(3) I have never met anyone to whom it was more difficult to refuse a loan.

否定の比較構文で注意することは補うべき語を確認できたか、ということである。

〈生徒の訳例〉

「私は貸し付けるのを断りにくい人には誰にも会っていない。」「ローンを断ることがもっと難しい人には会ったことがない。」という解答例が多く、「金の貸し付けを断ることが〈彼ほど〉困難な人には私はいくらまで出会ったことがない。」と補充するべき語を見つけないことができなかった生徒がほとんどであった。

比較表現については日頃からよく指導しているつもりではあるが、特に否定構文になれば省略されている語を補うことは困難であるようだ。授業で学習

していることをどのように応用していくか、まだ問題点はたくさんある。

6 内容理解について

今回の指導目標が細部にとらわれずに大きなストーリーの展開を読み取っていくことだった。したがってまず、ジョージ、トムの生き方、性格の違いを理解させるために次のような課題を出した。

(1) 下線部 the lesson の内容を具体的に書きなさい。

Among those I learnt was *The Ant and The Grasshopper*, which is devised to bring home to the young the useful lesson that in an imperfect world industry is rewarded and giddiness punished. (中略)

I do not ascribe it to perversity on my part, but rather to the inconsequence of childhood, which is deficient in moral sense, that I could never quite reconcile myself to the lesson.

〈生徒の解答例〉

蟻ときりぎりす、蟻ときりぎりすの考え、怠けていると後々後悔することになるということ、などの解答が多く、本文中の industry is rewarded and giddiness punished を記入した正解は32名中8名しかいなかった。これは読みながら常に主題を考えていくという習慣が身に付いていないからだと思われる。

(2) 文中に Poor George とある。なぜ Poor なのか。

その内容を具体的に書きなさい。

〈生徒の解答例〉

年齢のわりに老けて見えること、25年間2週間以上の休暇を取ったことがないことを解答に求めたが、怠け者の弟のため、弟のトムの莫大な借金を代わりに払っているから、の解答が多かった。

(3) George の引退後の生活設計はどんなものか。

〈生徒の解答例〉

55歳で職をやめ、田舎に小さな家を建て、そこで自分の庭を耕し、ゴルフをする。これは生徒には理解しやすい設問だった。

(4) George と Tom との性格および生き方の違いについて書きなさい。

〈生徒の解答例〉

George : 正直者でよく働く立派な人で定年後のこ

とも考えている計画性のある人

Tom : 怠け者に役に立たない、ふしだらな恥ずべき悪党。先のことを考えず、今を楽しんでいる計画性のない人

7 生徒の感想

(1) この短編小説を読み感じたことを書きなさい。

〈生徒の解答例〉

- ・実際の英文は難しいと思った。
- ・性格の全くちがう兄弟の生活と蟻ときりぎりすを比べているところがおもしろかった。
- ・トムのような人間にはなりたくない。
- ・トムの生活には憧れを感じるがジョージは少し気の毒に思う。
- ・世の中は蟻ときりぎりすのように単純ではなく複雑で何が起こるかかわからないと思った。
- ・ジョージはかわいそうだった。
- ・文中の教訓がとても印象的だった。
- ・読み終えたときに充実感があつた。

(2) このようにオリジナルで英文を読むことについてどう思いますか。

- ・いい刺激になった。でも単語が難しかった。
- ・英語に慣れるためにも必要なことだろうと思う。ただこの文章は難しかったので、もう少し簡単なものを読んでみたい。
- ・教科書よりもレベルの高い英文を読むことになるので読解力や語彙力がさらにつくと思う。
- ・苦勞した。でも集中力がついた感じがします。
- ・普通の授業と違うことだったので新鮮でやりがいがあった。
- ・単語の意味がわからなくてもこのような物語だったら想像できるので想像力がつくのでよいと思う。
- ・時間があるときにもっと簡単な文章を読みたい。
- ・以前より文の意味をつかむことが上手になったような気がする。

8 指導法の再点検

〈生徒のアンケート集計から〉

生徒の学習に対する考え方が変わってきたと言われている。教える側は生徒から見たときどのように映っているのだろうか。3年前英語Ⅱの担当3クラス(116名)に次のようなアンケートを実施した。

(1) 高校に入って英語が

ア 好きになった 25名(21.6%)

その理由として

- ・英語がわかるようになった。
- ・授業がおもしろい。
- ・成績がよくなった。
- ・英語で人に通じたときの喜びがあつた。
- ・難しい構文を勉強するようになってやりがいが出てきた。

イ 嫌いになった 19名(16.4%)

その理由として

- ・単語の量が増えて理解しにくくなった。
- ・文法が難しい。
- ・暗記することが多い。
- ・勉強がわからない。
- ・重点がしぼれない。

ウ どちらとも言えない 72名(62.0%)

意欲的に努力していこうという生徒とあきらめかけた生徒がでてくる学年である。最大の問題は無関心ともとれる生徒が非常に多いということである。

そこで指導法を整理し次のように改善した。

リーディング指導については生徒にとって理解困難と思われる箇所はあらかじめ説明して、彼らがそれほど抵抗なく読めるように補助してやる。特に多義語等については注意を促し、ストーリーの展開を理解するうえでの判断材料を提供する。指示語については意識して考えさせる。英語独特の表現、構文は辞書で確認させ、内容把握についてもこの線に沿って考えるように指示する。各課はパートごとに区切らず全体を通じて予習させる。概要が理解できたら個々の生徒の能力に応じて読ませる。途中、つまずきがあれば質問を受ける。この方法は習熟度別学習指導にも役立ち、効果的だと思っている。自ら学び、質問しなければ伸びないということを浸透させる必要がある。そこまでしばらく辛抱できるかどうかである。教える側の論理で全体に説明する部分を可能なかぎり少なくして、時間をかけてやることのほうが長い目でみると学力は向上してくるようだ。

(2) 教師に対する評価

これまでどんな指導がよかったと思いますか。

- ・説明のあと意味を考えさせること。
- ・質問の時間があるので予習もやる気がでた。
- ・英文の意味がきちんとわかるようになった。
- ・大切な箇所を指摘してもらえるのでじっくり考え

るようになった。

- ・関係のあることをまとめて教えてくれるのであとで役に立った。

(3) 教師への注文

これからどんな指導を希望しますか。

- ・もう少しゆっくり進んでほしい。
- ・読解力をもっとつける指導を希望します。
- ・英作文の指導をしてほしい。

(4) 授業に対する評価

これまでの私の授業についての印象を書いてもらった。

- ・緊張感がもてる授業であった。
- ・予習復習を進んでするようになった。
- ・将来のことや人生について話してもらえてよかった。
- ・テストのときは時間的に余裕があった。
- ・その日に何をどれだけ学習するのははっきりしているのがよい。
- ・事前にポイントを指摘してくれるのがよい。

9 おわりに

英文を原文のまま読ませてみたいと思っていた。教科書よりもっと内容に深みのあるもの、しかもその教材が生徒一人一人の人生と結び付いたものでなければいけない。そうした観点から今回イギリスの

代表的作家モームの作品を選んだ。対象にした2年生にしては語彙の面で難解であった。しかし生徒の反応は私の予想を超えてこれに挑戦してくれた。

「かなり大変だったが、やり終えたときの充実感がよかった」という生徒の感想がほとんどであった。1時間に1ページのペースで集中した生徒もいた。実際の小説に直接触れることにより、日頃の学習を見直してくれるならこれは一応の成果ではないかと思っている。英語学習の高さに到達するためには、もう一度基礎基本を充実させなければいけないことを実感した。そういう意味では学ぶ側も教える側も初心にかえり努力したいと思っている。

英語を学習するのにどんな要素が必要だと思えますか、という問いに(複数解答160)生徒は次のように答えた。

ア 教師の人格	(63)	(39.4%)
イ クラスの雰囲気	(46)	(28.8%)
ウ 友人関係	(4)	(2.5%)
エ その他	(47)	(29.3%)

47のうち36は生徒本人のやる気となっている。

これからの教育を考えたとき、教師の姿勢がどこまで変わることができるかであろう。授業成立の要素があまりにも複雑多岐にわたっている。

(長崎県立長崎北陽台高等学校教諭)

原稿募集について

CHART NETWORKは、各方面で英語教育にたずさわる方々の、英語教育に関する実践や研究などの発表を大きな柱として編集されます。そこで、広く原稿を募集いたします。

1. 原稿は未発表のものに限ります。英語および英語教育に関するオリジナルのものであれば、内容は問いません。

2. 執筆要領

- ① 1ページは左右23字、天地43行の2段とし、2～4ページにおさめてください(句読点は1字とする)。英文の場合は1ページ550 wordsを目安としてください。
- ② 特に強調したい箇所(太字にしたい箇所)には、赤色で下線を引いてください。
- ③ 冒頭には必ずタイトルをお付けください。このタイトルは、10行×2段とってください。
- ④ ワードプロで原稿を作成された方は、ご使用の機種を明記のうえ、なるべくフロッピーディスクも原稿と一緒にお送り下さい(フロッピーディスクはお返しいたします)。

3. ① 掲載量には限りがございますので、編集部で原稿を選択させていただくことをご了承ください。また、内容の趣旨が変更されない範囲で、原稿の一部を修正させていただく場合があります。

② 掲載させていただきました分につきましては、弊社規定の原稿料をお支払いいたします。

4. 原稿の送り先

☎ 604-0867 京都市中京区烏丸丸太町西入ル 数研出版株式会社 関西本社編集部 CHART NETWORK 係